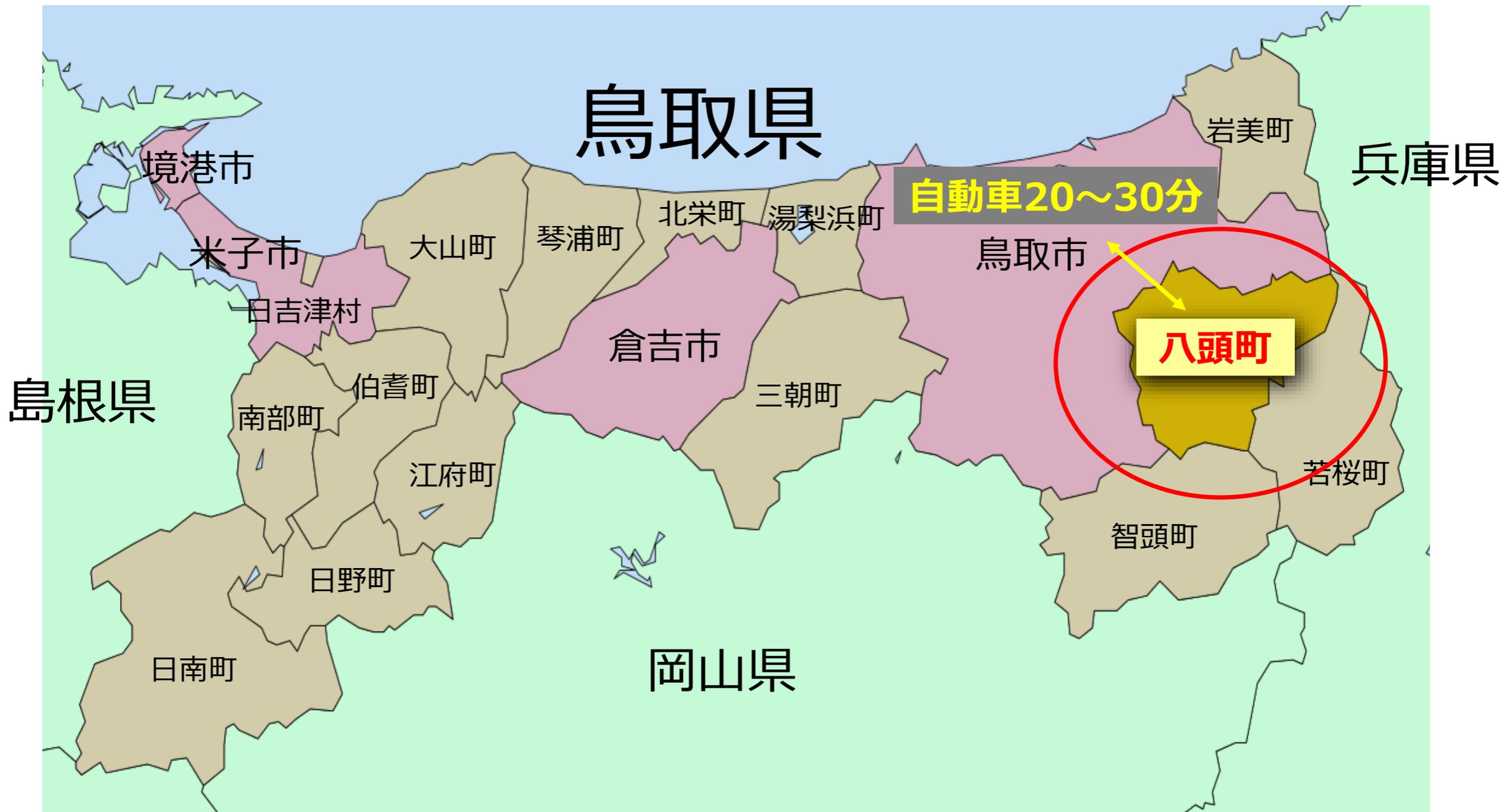


公民連携コミュニティ複合施設 “隼Lab.”

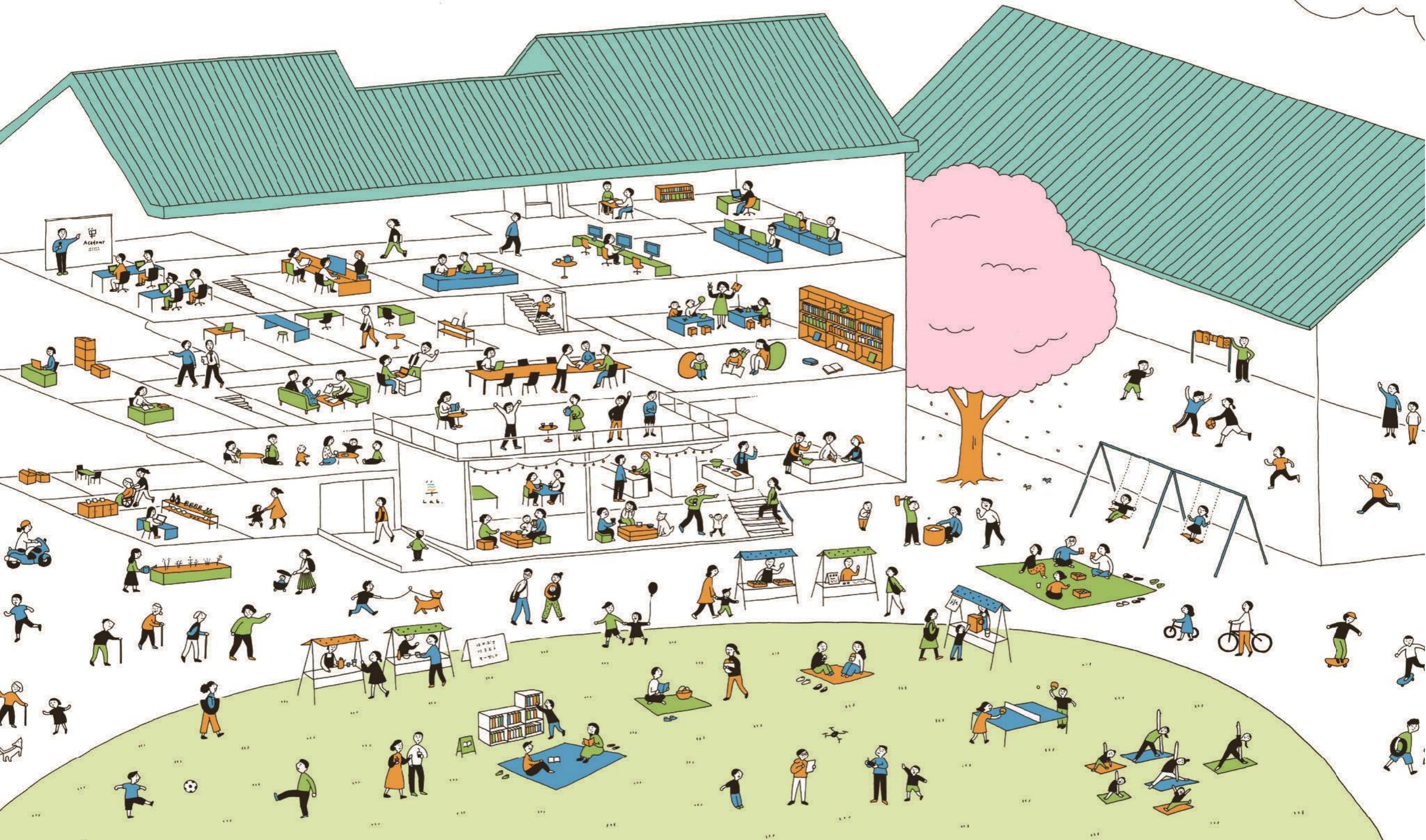
鳥取銀行 × シーセブンハヤブサ



- 人口：16,739人（2020年11月1日、町HPより）
高齡化率：34.8%（65歳以上、2017年4月1日、鳥取県資料より）
- 2005年に3町が合併してできた町
- 周囲を山々に囲まれた自然豊かな典型的な中山間地域
特産品は柿や梨のフルーツ等

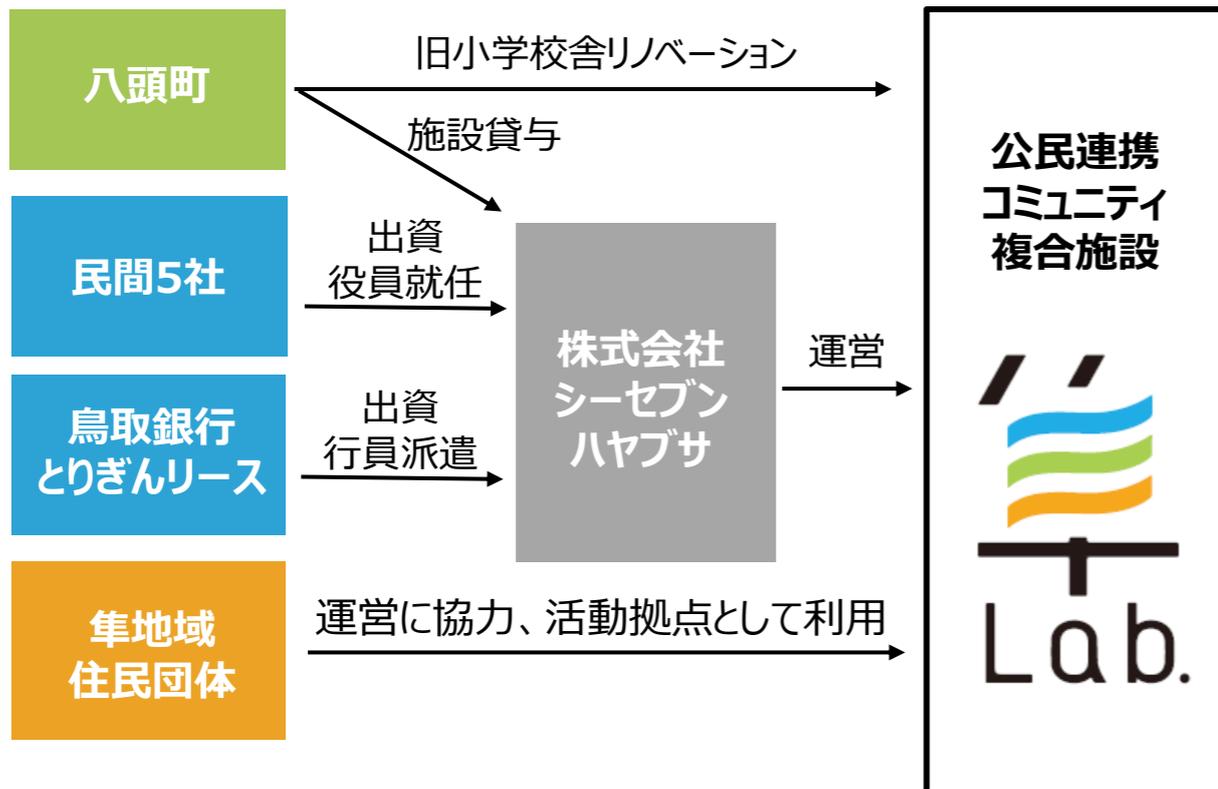


多様な生き方がゆるやかに重なり合い 一人一人の暮らしを豊かにする場



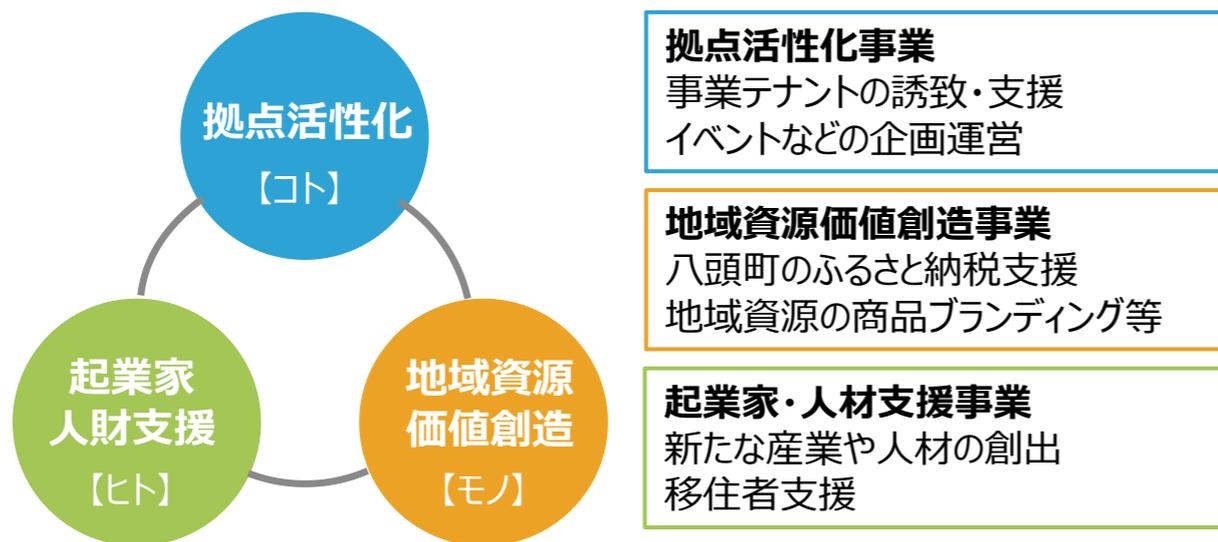
スキーム、これまでの実績

【枠組みのデザイン】



【事業ドメイン】

地域課題の解決や新たな雇用産業を創出する場づくりを行う。
民間の活力を活用し、一過性ではなく、持続できる事業を目指す。



【取組状況】

①年間約12万人が来場、施設内就業者約60名

つながりが生まれる「飲食」を核とし、様々なイベントやスクールを開催。16社の入居企業と多様なコワーキングスペース利用者。地域住民の交流拠点かつ、ビジネスの拠点として運営。



②起業創業13件（2017年12月～）、経営スクールの開講

運営会社の出資協力企業などによる金融、Web、デザイン等多方面からのサポートが可能。またそのリソースを活かして経営スクールを開催。鳥取銀行も積極的に関与。事業者の集積、ワーキングコミュニティの拡大を目指す。

③移住定住支援、ふるさと納税支援等、町と共に取り組む事業

働く場所と住まいの情報をワンストップで提供できる強みや民間の情報発信力を活かした移住支援。ふるさと納税支援では、新たな発想での返礼品企画や情報発信で、町の魅力を外へ発信していく。



地域の動き

隼地域の盛り上がり

隼ライダーの聖地としての認知度向上
地元の若者の起業（空き家、空き施設の活用）
地域住民の活動も活発



■ 八頭町総合戦略： “八頭イノベーションバレーの創設”

YAZU INNOVATION PROJECT 中山間地域とイノベーターの融合によるまちの共創

日本の国土柄多く存在する中山間地域特有の課題、地域特性を、
むしろ新しい価値創造へ変革していくような挑戦を八頭町で行っていく。
地域住民が集まる戦略拠点を含むまち全体を、住民や外部イノベーターが
参加・活用できるまちづくりの実験エリアとする。
まちの正解は自分たち（地域住民）で作っていく。



計画・準備段階からの民間の参画

	プロジェクトの主体者	プロジェクトの動き
2014	—	関係者 協議開始
2015	八頭町、SBヒューマンキャピタル（株） （町から地方創生事業を受託）	住民参加のプロジェクト会議 具体的な事業の検討を開始
2016	まちづくり事業会社設立準備委員会 （鳥取銀行は委員長として関与）	隼小学校の活用に絞る = 隼Lab.プロジェクト
2017	(株)シーセブンハヤブサ	3月 隼小学校閉校 ↓ 12月 隼Lab.オープン

3年 (Red arrow pointing down from 2014 to 2017)

半年 (Red arrow pointing down from 2017)

行政	内部調整及び地域説明への尽力。 民間が主体となることを早い段階で決定。
民間	民間ならではの事業プラン等の提案、 町内外の協力者を集め、主体となって動いた。
地域	自分たちの地域のプロジェクトと捉え、 協議段階から、積極的に参加した。

行政によるリノベーション、民間による運営



八頭町が
リノベーション



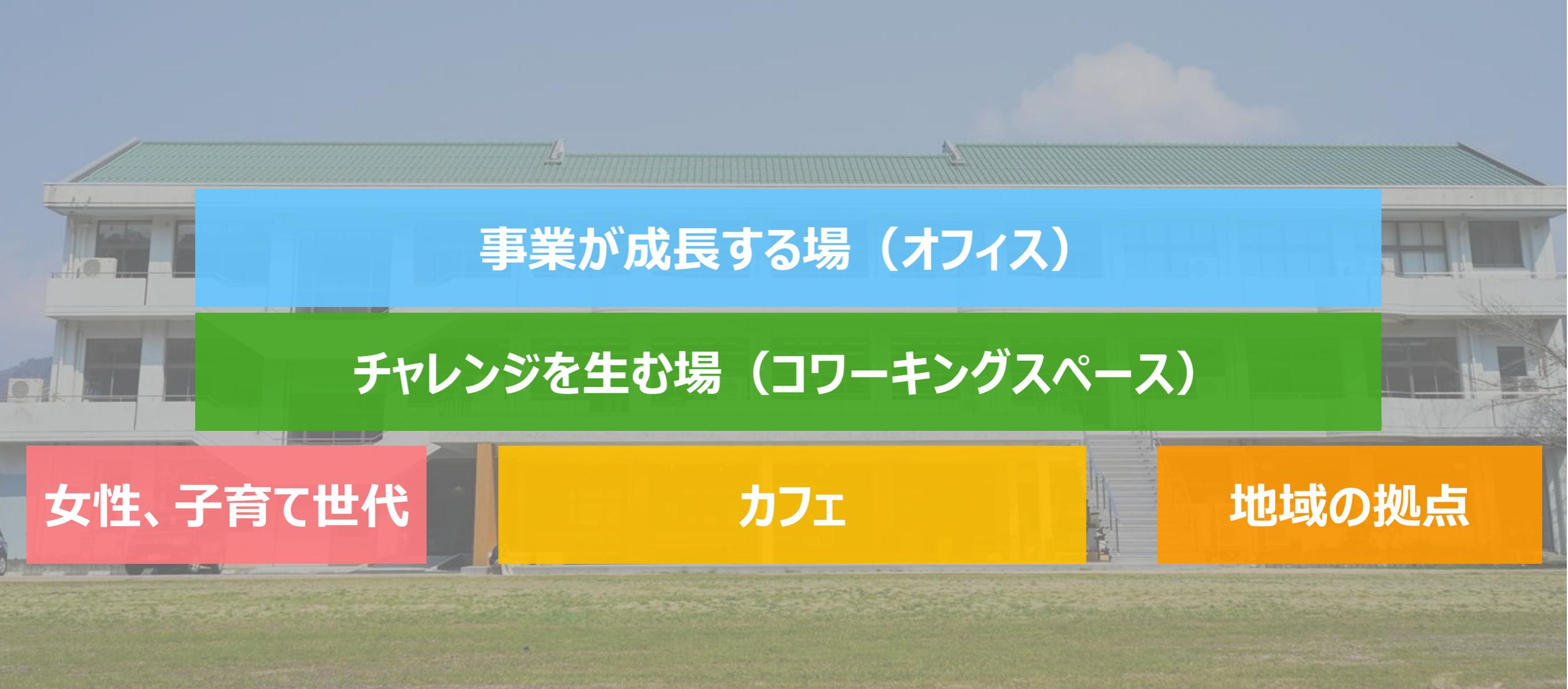
貸与を受け
完全民間で
自走運営



	以前		拠点オープン後
所有権	八頭町		
施設名	隼小学校	→	隼Lab.
運営	公（職員）	→	民間の合弁により設立した運営会社 ※町からの出資なし

■ 民間による運営を踏まえてプロジェクトを進めたことによるメリット

ハード	<ul style="list-style-type: none"> • 実際の場の使い方、持たせたい機能を踏まえた、運用に直結する施設に。 • デザイン性を兼ね備えた、魅力ある施設に。
ソフト	<ul style="list-style-type: none"> • 民間主導で企業誘致を行ないオープンまでにオフィスの約8割が入居決定。 • 潜在熱を持った人たちを巻き込み、認知も広まった。



事業が成長する場（オフィス）

チャレンジを生む場（コワーキングスペース）

女性、子育て世代

カフェ

地域の拠点

**施設に様々な要素を盛り込むことで、地域の機能を集約し、
多様な世代、様々な目的で人々が共存する場所。**

**人々が集まることにより、コミュニティが広がり、
新しいチャレンジが生まれる場所。**

子どもが楽しみ学べるイベント、大人の本格的な趣味の講座、マーケットなど、暮らしが少し楽しくなったり、小さなチャレンジのきっかけとなったりする場。イベントの共催、地域イベントへの参加等を通して、地域を巻き込んでいく。



**オフィス16室は満室、コワーキングスペース24会員。
システム、アプリ開発、インターネット広告、ドローン事業、再生可能エネルギー、
スポーツチーム経営、旅行会社、新聞社等、多様な業種の企業が利用。**

**コンセプトへの共感。鳥取をおもしろくしたいという潜在熱を繋げた。
多様な働き方を可能にし、新たなカルチャーが生まれるという期待感。**



鳥取銀行のプロジェクトへの関与

隼Lab.プロジェクトへの早期段階からの関与

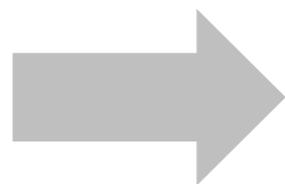
- 八頭町**総合戦略の策定を支援**
- 事業会社の設立に際しては、**設立準備委員会の委員長**に就任。
民間企業と連携し、事業計画策定を支援。

運営会社シーセブンハヤブサ設立に際しての支援

- **出資・人的支援**
鳥取銀行グループで出資を実施。出向で実務者を提供するとともに、監査役に就任。

銀行の果たす役割、隼Lab.の目指す姿

- 銀行の信用力により、**プロジェクトの信用力を増す**とともに、事業の推進力を強化。
- **一歩踏み込んだまちづくりへの取組**の1つのモデル事業
- 運営会社が行なう**経営スクール**への参画や、起業者や入居する事業者の**伴走支援**を実施。



事業者コミュニティの構築
雇用やこの地ならではの魅力的な企業の創出
新たなチャレンジを生み、地域課題解決に取り組んでいく

日本の未来のモデルになる田舎をつくる

そのために今、未来への投資を。

